

会報 No.291

キャリア・コンサルタント

2019年（平成31年）2月10日

© キャリア・コンサルタント協同組合

[発行] キャリア・コンサルタント協同組合
発行責任者：渡邊 健三
〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F
Tel: 03-3256-4167 (代表)
直通電話：営業本部 03-6821-7544
外実事業部 03-6826-7789
Fax: 03-3256-4168

E-mail : [会報編集部] henshu@ccco.jp
[事務局] jimukyoku@ccco.jp
[営業本部] eigyo@ccco.jp
URL : <http://www.occ.or.jp>
<http://www.ccco.jp>
編集長 : 田中 努
編集者 : 平松靖弘 影山和子

竹内正順 追悼号

営業副本部長の竹内正順さんが1月25日急性大動脈解離で逝去されました。
生前を偲んで下記の方から追悼文を頂きました。

渡邊 健三
栩木 義彦
田中 努
大野 長壽
平松 靖弘
荻野 徹

下斗米裕英
下田 将文
今井 晴康
石川三千雄
杉本 和彦
影山 和子

1. 高齢者雇用とテレワーク

理 事 田 中 努

2. 事務局だより

事務局長 平松 靖弘

一粒万倍

編 集 長 田 中 努

早すぎるよ、竹内さん

理事長 渡邊 健三

竹内さん、突然の知らせに耳を疑りました。関西方面で3か月に一度の定期監査の最中に、宮坂さんから知らせを聞きました。事故にでも巻き込まれたのかな、と一瞬頭をよぎり、どうしたのだろうかと思いました。私の出張前、訃報を聞く数日前には、事務所で元気に、部屋中に聞こえるほど大きな声でお客様と電話でお話ししたり、夜遅くまでパソコンとにらめっこしながら仕事をしたり、3時のお茶では言いたい放題など、見たばかりでしたので、大変驚きました。原因はご病気とのことでなおさら驚きました。あの目力、押しの強さ、声の大きさ、体・頭の形から、病など追い返してしまうように感じていましたが、残念としか言い表せません。

CCKにおいて営業本部を現在の状況にまで引き上げたのは、竹内さんの尽力の賜物と思います。なかなか成果が上がらず、したがって収入も増えず大変なご苦勞をされた時期もあったと思います。まさに、これからその果実を摘み取る時期に病に倒れ、やり残した仕事も多々あり、無念ではあるとは思いますが、あとはCCK全員でカバーをし、頑張っていきます。天国から指示を出していただいても結構ですが、安心してどうぞ心安らかにおやすみください。

営業本部と竹内正順さん

理 事 営業本部長 榎木義彦

竹内さん、あなたには3回も裏切られましたね。

“何が?”って、私の後継者として“営業本部長”になってもらうことです。

1回目は平成20年に私が理事長になるときに“営業本部長”のポジションを彼に引き継いだのですが、その2年後に“生活もかかっているので2~3年継続しできる仕事がしたい”ということで、元理事長の篠田さん(故人)の関係でご縁があった光明寺(本山は岐阜、東京都の拠点は荒川区の町屋)に半ば就職の形で行ってしまいました。その時点で“営業本部長”を受けられる人がおらず、私が兼務することになりました。

2回目は4年間にわたるお勤めが終りCCKに復帰した時です。その時私は既に理事長を退任し“営業本部長”に専任していましたが、その時点で“営業本部長”を譲ることを打診しましたが、“4年間のブランクに加え、世の中の流れ、CCKのメンバー構成も変わって来ている。その辺を見極めたいので時間がほし

い。”ということで私が“営業本部長”を続け、彼は“営業副本部長”のコンビで行くことになりました。”

3回目ですが、彼が復帰してから営業拡大のため試行錯誤しながら辿り着いたのが、平成 27 年度に資格を取得しながらも生かし切れなかった官公庁及び東京都の指名競争入札の資格を生かし、感受を獲得することでした。

平成 29 年度から東京都は、オリンピック・パラリンピックを念頭に、産業の活性化を図るための需要喚起策として、“2020 ビジネスナビ”なるものを開設し、東京都の仕事をはじめ、民間の仕事もこのサイトで募集できることとし、これを機に東京都の入札募集件数は大幅に増えました。

CCK は、“情報” “調査” “企画” “業務請負”の入札資格でこうした入札案件に挑戦しましたが、結果は 8 戦全敗と惨憺たる結果でした。それでも 30 年度に入ると竹内さんと再び果敢に挑戦しましたが、やはり出だしから 5 連敗し気持ちも切れかかった 6 月中旬、東京都の“ふぐ調理師・製菓技術者の受験事務局サポート”(受講票・受験会場の座席票等の発行、受験結果の集計・分析、合格通知書の発行等)でした。結果として 30 万円以上の大赤字になりましたが、とりあえず官需第 1 号が取れたということで、都庁で契約を済ませた後新宿のすし屋で 2 人で乾杯しました。

その時私から“定例の役員改選は終わっているが、この官需第 1 号を機に思い切って引き継ごう”と申し出ましたが、“任期の 2 年は全うして下さい。それにまだ榎木さんから学ぶべきことが多くあるから、それを全部吸収したら引き受けてもよろしいですから”ということで、その線に沿って進めていたところで、今回の結果になってしまいました。

彼が CCK に参加したのは平成 17 年頃、私が CCK で営業専門の組織を作ろうと提案したのはその 3 年前の平成 14 年で、それも大半の組合員(というよりは CCA 会員つまり今でいう賛助会員)から、“コンサルタントが営業活動などすべきではない。”“そんなことをしなくても向うからいくらでも入ってくる”“そんな安っぽい団体なのかとバカにされる”等々散々たたかれる中でした。

それでも孤立無援の中私が“営業本部”を立ち上げたのは、“このままではいずれ注文もこなくなり、先細りする”という不安感と、“組合員が喜びを感じられる組織にしたい”ということでした。

賛同者がなかなか現れず一人で四苦八苦していたときに、“営業は絶対に必要”、と私の考えを支持し、協力を申し出てくれたのが竹内さんで、それ以降 2 人を中心に他にも協力者が多く出て活動が活発になると共に、毎週恒例となった“営業会議”も発足して今日まで続いています。その結果の営業成果と外実の頑張りが実って、今日の財政基盤が出来たと言って良いでしょう

彼が心血を注いだ営業活動、特に入札案件は本年度東京都を中心に 11 件を獲得し、その最後の成果となった「大田市場の輸出プロジェクト」「患者管理のシステム開発」は契約締結に至り、この 2 件に加えて「3. 11 避難者調査」を含めた 3 件が本日(2 月 4 日)までに実務者協議が終わり、実践に入ります。

「無念の思い」は尽きないと思いますが、いまは全てを忘れて静かにお休みください。お疲れ様でした。

竹内君へ贈る言葉

理 事 田 中 努

竹内正順君、なぜ僕を置いて何も言わずに先に黄泉の国へと旅立ったのか？まだ73歳、僕と同じ「一白土星」「ふたご座」で九つも若いのかかわらずに！組合では次世代の営業担当として、あと10年間は働いてもらわねばならない人であった。組合に加入した時、名前が「正順」で、スポーツ・アナウンサーの「志村正順」をすぐ連想したのだ。

貴君の努力により東京都の入札案件も順調に受注し始めており、来期には業務請負としては2,000万円の売上も期待できたのに、あとに残された人のことも少しは考えて欲しかったよ。一時、町屋のお寺に奉公に行ったときは、袈裟懸けの姿が良く似合っていたね。また、組合の事務所では冗談交じりの会話も面白く、知識も豊富であり、機智にも富んだ話には魅力も感じていた。

ただ一つ気になっていたのは、机の上がいつも「ごちゃごちゃ」で、あれでよく仕事が出来て、書類が散逸しないな一と感心していた。鬼籍に入った1月26日の三日前の23日の理事会で、奇しくも「机の上と身の回りを整理する」ようにとの意見が出されたのであったが、それがまだ貴君に届いていなかったのだ。

一人暮らしであり、何となく寂しさが態度に表れていたが、常に単行本を脇に掲げており、知識を吸収している様子が読み取れていた。自ら119番に電話をして救急車を呼んだのも貴君らしさがあったね。しかし運ばれた病院（高島平中央総合病院）で意識が回復せずそのまま旅立ってしまった。病院から警察そして杉並のお兄さん（竹内正和氏、82歳）へと連絡がつき、組合へはお兄さんから知らせがあった。その時居合わせた人たちから一様に「本当かよ、まだ若いんだろう！」という声が上がった

お兄さんから故郷の静岡で親戚一同に見守られて最後の旅支度をしたと、聞いて一安心した。2月1日になってお兄さんがわざわざ組合の事務所を訪ねて来られ、初七日・納骨も終わり、あとは四十九日の法要を残すのみとのことだったよ！

どうぞ今後のことは心配せず安らかにお休みなさい。合掌！

竹内正順さんを悼む

理事 大野 長壽

最初の出会いは、大迫さんと竹内さんが組んで仕事をしていた頃、大柄な穏やかな明るいキャラな人という印象でした。その後、竹内さん、神力さんと平成 22 年 9 月に町田商工会議所での仕事でした。インターネットを中心とした IT 技術、クラウドコンピューティングを活用することにより、小規模事業者でも大企業並みの機能を持つ事が可能となる。新事業・新産業創出のために技術修得、活用方法の研修会と、ニーズに沿ったビジネスマッチングを支援し事業展開に発展させる促進交流会を支援したことです。参加メンバーをグループ分けし、IT 技術を使って「夢」の実現への取り組み技術を体験してもらったときの竹内さんの活躍には目を見張りました。その後お寺に 3 年ばかり出向していた頃も葬儀のビジネスモデル等考えていました。CCK に戻ってからも、考えの幅の広さが期待され、市場ニーズに対する深い理解も優れて仕事開拓をしていました。実に惜しい人を失いました。心からの哀悼をささげます。

竹内正順様

理事 平松 靖弘

1 月 26 日に急使の知らせを受けて、一瞬なんのことか戸惑いました。急死したとの事で言葉に詰まりました。前日の 15 時ごろまで打合せをして、その直後に、事務所に「大阪なおみ選手が勝った」と連絡してくれたのが最後となりました。

君が CCK に入会した頃は、古巣の仕事の手伝いで CCK に籍を置いたまま出掛けておりませんでした。最初は電話対応の仕事で大迫さんとコンビで出向しておられ、戻ってきて、すぐに光明寺へ常駐の形で仕事をされた。

意外と行き違いで一緒に仕事したのは年月の割に少なかったと思います。

しかし、仕事が終わって、資料を纏めたり、思いついて、夜遅くまで議論、くだらない冗談を話したりした事がまだ頭の中に残っています。

君は、私がメルマガで発信した各種の案内に対して、誰よりも速く、早く、「あんなの全然だめだよ」「文章が長すぎる」「ユーモアに欠ける」のと指摘をしてくれました。たまには「これは良かった。続けよう」など言って頂いたこともありました。

君は、羨ましいほど良い趣味を持っていました。それは読書であり、聞くところ、本は2から3日でほぼ読了。本屋さんとは顔馴染みでした。分野は気にせず幅広く、性格にあった読み方であったと思われます。

君は、「お酒は飲まれるから、控えて飲まない」と言っておられました。お酒を飲んだら止まらなくなり、すぐ1本空けてしまうから自制していると交流会の席で話をしていました。食事は朝昼とも決まった弁当で、自身の健康にあまり気に掛けていなかった様に思われます。まだまだ一緒に10年位は頑張れたのに残念です。とにかく人生は一直線、奥様の近くへ行ってしまったんですね。いろいろとお世話になりました。有難う御座います。合掌。

竹内さんを偲んで

理事 荻野 徹

突然の報に接し、数日の間、信じられない思いで呆然と過ごした私でした。

ちょうど東京都の大田市場の調査案件の入札にあたり、いくらで入札しようかといった件でずっとやり取りをし、いろいろ考えた末に350万円で入札を決断され、見事落札され、推進体制を調整され、東京都に説明に行かれた了承をもらい、さあメンバーを集めてスタートという段階での急逝でした。

いつもエネルギッシュな笑顔で、組合の中を歩かれている姿を見ると、いつも元気をもらっている感じで、頼もしく感じていましたが、先日、東京都の大田市場の担当の市場政策課課長代理の山添さんという女性にお会いした時に、竹内さんの深い人柄を改めて感じるようになりました。

それまでは、金額の高い案件を受注した竹内さんという目で見ていたのですが、単なる案件としてではなく、山添さんのこの入札案件の背景にある深い思いに竹内さんも共感されて、この仕事を進めようとしていたことに気づき胸が熱くなりました。

竹内さんは、山添さんに、「私に聞かせてくれた山添さんの思いを是非、CCKの担当メンバーにも、最初にお話しになってください」と頼まれていたそうです。その依頼があったことを話されて、私たちがお伺いした場で、山添さんが話して下さったのは次の話です。

東京都が運営している大田市場では、法的にも受託拒否の禁止ということで、取扱いを委託する生産者から取扱いの限界を超える青果やその他の食材が集まってきており、日常的なジャガイモや玉ねぎだっりの食材だが、日本の安全・安心な良質の食材が、市場で廃棄されてしまうという残念な結果になっている。現在、イチゴや高級作物の輸出は盛んにおこなわれているが、こうした日常的な食材には、輸出の光が当たらず、市場で朽ちてしまっている残念な現状がある。もしこうした食材に輸出という出口が見つければ、生産者にとっても、輸出先の

消費者にとっても、市場で取り次ぐ業者にとっても、三者にとってメリットのある関係が出来上がる。都としては特定の高級食材を扱う輸出事業者の支援ではなく、こうした大きな枠組みを大田市場を改革することで作り上げられないかという思いで今回の委託を行っている。委託調査には、東京都も協力して、ヒアリング先との調整やヒアリングへの同席等も積極的に行い、成果創出に向け協力していきたいと考えているのでよろしくということでした。

市場の管理法令が変わり、市場の運営が地方公共団体から民間にも解放されるという変化の中で、竹内さんは、山添さんの描く、高い使命感に共感して、この仕事を進められていたのだということ、山添さんのお話を通して感じることができました。

また、山添さんが竹内さんについて語られるときの表情や語り口に、信頼感が醸成された人同士の情が伝わってきて、この案件が、竹内さんと山添さんの心の契約で裏打ちされたものであることがわかりました。

今まで竹内さんについては表面的受止めしかできていなかった私でしたが、今回の件で、竹内さんの人と接する時の思いの深さを知ることができて感動しました。そして、それが、この別れの時であったことが、大変残念でなりません。

あとは、この仕事できちんとした成果を目指して、CCKのチーム一丸で推進し、竹内さんにも笑顔で受け入れてもらえる結果をだすことで、この機会を獲得していただいた恩に報いたいと思います。

大変残念ではありますが、竹内さんのご冥福をお祈りいたします。安らかにお休みください。

竹内さんを偲んで

監 事 下斗米 裕英

宮坂さんから竹内さんが亡くなられとの知らせを受けた1月25日は、事務所で仕事をしていました。前日までお元気でしたので、一瞬驚きました。東京都の入札案件の仕事を一緒にしていたので、頭が真っ暗になりあたふたしてしまいました。しかし、時間の経過とともに心も落ち着き、その仕事を受け継ぎ、現状を乗り切っていきたいと思っています。竹内さん、天国で安らかに眠りください。

竹内正順 さま

組合員 下田 將文

ISO 事業部長の竹内正順さん逝去の報せを頂き、大きなショックを受けました、と同時に竹内さんと仕事の上で最も関係の深かった、前 ISO 事業部長の伊藤亮二さんにお知らせしました、伊藤さんは、一瞬絶句されました、折角、事業部長を引き受けて頂き、これからという時に突然の逝去であり、残念の極みとのことでした。

竹内さんは、伊藤さんと私にとっては、2010 年代における戦友であつたと言えます。両氏が見込顧客にプレゼンテーションを行い、それらが、成約に至る途上で、伊藤さんが、竹内さんと相談しながら、マネジメントシステムなどの構築及び文書化を行い、私はデータ化するなどのお手伝いをさせて頂きました。例えて申せば、「3人4脚」でした。

竹内さんは、人当たりの良さ、弁舌の巧みさに、加えて、最も必要な押しの強いセールスマインドの持ち主であり、天性の営業マンでした。

しかし、営業一筋のセールスマンではなく、ISO のシステムをベースにし、ISO に拘らず、多岐にわたる企業に対する、各種のマネジメントシステムを企画し、新しいビジネスモデルの開発が必要との信念の提唱者であり、ISO 事業部のメンバーに対して、現行の ISO のシステムに閉じ籠ることなく、各種のマネジメントシステムにトライすべきと提言し続けておりました。

このような、竹内さんのアグレッシブな活動により、やや沈滞気味であった、ISO 事業部の展開も上向きになりつつあった時の訃報であり、伊藤さん共々私にとっても誠に残念としか言いようがありません。しかし、竹内さんが、消えようとしていた ISO 事業部の灯を、再び灯そうとされた、その意思を無にしないようにすることが、残された者の務めと思っております、 合掌

竹内正順様

組合員 今井 晴康

突然の悲報に接し、本当に驚くばかりです。巨体を揺すってのしのしと、それでいてフットワークは軽くフロア歩いておられたので、凄い人だなあと感心し、昔は相撲か柔道でもされていたのかなと想像しておりました。

自転車商協同組合や製菓組合の仕事で短期間のお付き合いでしたが、同じフェンスの中、隣の席で一緒に仕事をさせていただいたことで、竹内さんの誠実で温情な人柄、多方面に亘る博識さ、経験の豊かさを肌で感じることができました。

思い出ありがとうございました。
ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

竹内正順さん急逝する。合掌！

賛助会員 石川 三千雄

1月26日朝9時過ぎ、自宅でデスクワークをしている時、榎木さんから電話あり「25日朝早く竹内さんが急死した」旨伝えられた。そんな馬鹿な、えっ！と絶句した次第です。

25日は朝からCCKへ出向き、2月7日から始まる第8回武蔵野エリア産業フェスタのカタログを富士通関連センターへ届ける資料を整理していた。大野さん、佐野さんも出られており、まもなく竹内さんも来られるかなと噂をしていたが、もうその時は既に亡くなっていたとは思ひもしなかった次第です。

竹内さんが過去数カ月のうちに東京都水道局、東京都中小企業振興公社などの諸官公庁から入札案件を次々に決め、営業担当者の夢を掻き立てていた。その中でも「東京都中央卸売市場大田市場の輸出に関わる調査分析等の業務委託」が1月17日に決まり、CCK最大の入札案件として納期が切迫しており、会員全員の協力が必要だと23日の営業会議で伝えられたばかりであった。

まとめのリーダーは竹内正順であり、さて！という時のことで皆ビックリ。

年齢的にもまだ73歳で表面的には全く元気であり、なんの予兆も見当たらず、誰もが「ちょっと早すぎだ」という言葉と共に心から合掌する次第です。

「平成31年1月7日CCK新年会で竹内さんと楽しく飲んだことを思い出します」



竹内さまへ

賛助会員 杉本 和彦

竹内様とは、CCKのPマークの認証取得への取り組みで、ご一緒に仕事をさせていただきましたが、明るく前向きで仕事が早く気持ち良く進めることができる方でした。急に他界され、ショックが隠せまん。今年中にPマークの認証取得の申請をしようと申請資料の準備をお願いしておりましたが、そこまで辿りつかない前にお亡くなり、誠に残念です。

ご冥福をお祈り致します。

竹内さん有難うございました

賛助会員 事務局 影山 和子

1月25日（金曜）の夕刻、榎木さんから竹内さんの訃報を知らされた。「ウソー！前日の夕方携帯で話したのに信じられない」余りの事に呆然！翌週月曜日事務所へ行くまで詳しいことも解らなかったので納得できなかった。出勤し、皆さんと話していて、ああー！竹内さんはもう居なくなっちゃたんだーとやっと実感、さみしさがじわーと心に広がってきました。

竹内さんがCCKに加入後、しばらくの間、光明寺に行かれていたのであまり話しをすることもなかつたのですが、戻られてのち、私も竹内さんの仕事を手伝うようになり頻繁に話しをするようになった。しかし、これがなかなか！仕事は真面目なのですが合間の話が大変！なにかと突っかかってくる。

「明日は出勤ではないから仕事終わらない」と言えば「終わらなきゃ明日へ出てくるよね！」とか
忙しくてお昼食べる暇が無いと言えば少しはやせていいだろう！
带状疱疹で体はピリピリ痛いし背骨がずきんと痛いと言えば、仕事している方が痛みが紛れるだろう！とか、ああ言えば、こう言う。
もっとも私も何か言われるとすぐ言い返すので、まあーお互いさまか！
私がお弁当を持って来れば俺の分は無いの？最近煮物をたべてないなー。
新年になっても餅を食べてないなー！海苔を巻いたのが良いなー、
新年会のおせちはお煮しめがいい！ワインのつまみは今なら牡蠣かカニかな？
傍で聞いている榎木さんが苦笑するほど言いたい放題！
でもそれに言い返す私の反応を楽しんでいるみたいでした。

ある時契約書のゴム印を私が押し間違え、契約先が原本を作られたので差し替えが出来ず困っていたら「ゴム印一つ押せないのか！」と言いつつも、契約先にお願ひして笑いながら新しい契約書をもたらしてくれました。こんなミスしてもしからない優しい一面がありました。

帰りの方向が一緒だったものでプライベートの事、思っている事、愚痴や不満、いろいろ話をしました。影さんが文楽に興味があるならこの本は面白い、日本画の「等伯」の生涯を書いたこの本はためになると読書家の彼からずいぶん本頂きました。竹内さんも私も絵画が好きですが、亡くなられた奥様も油絵を描いておられ相当お上手だったらしく、個展やグループ展をされていたようです。彼の批評は厳しく、的確だと奥様が感心していたとチョッピリ自慢話。私の水彩画のグループ展や教室展があれば必ず見に来てくれて中々厳しい批評をしてくれました。先日竹内さんは「俺スケッチ画を始めたよ」と言っていました。どんな絵を描いていたのでしょうか？もう見ることは出来ないのですね。

22日火曜日（亡くなる3日前）は、送られてきたアンケートの回答の入力、私とお手伝いの篠原さんは一日パソコンに向かい時々竹内さんも入力お手伝い。
23日水曜日は品川でのイベントのお手伝い。竹内さんの指導のもと、私と友人の二人が駆り出されました。竹内さんは大分咳をされ私に移すと俺は治ると、こっちにむかってゴホンゴホン！結構辛そうで隅の方の椅子に座り休んで居られました。

24日穀曜日（亡くなる前日）は体調が悪そうで、コヒーブレイクの時「今日は何も考えられない。仕事がまとまらない」と言われ、いつもより早く帰られました。私がアンケートの回答入力をしていたら16時過ぎ竹内さんから携帯に入電「大阪なおみ勝ったよ、あとは決勝戦だね」
その後17時42分またまた入電、「何処まで入力できた。無理しなくて良いよ。

明日僕がやっておくから」と優しい言葉！それが竹内さんとの最後の会話でした。

口喧嘩しながら、とても気の合う方でしたので寂しいです。
今は感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。
心からご冥福をお祈りいたします。 合掌

高齢者雇用とテレワーク

理 事 田 中 努

現在、一般的な企業の定年は 60 歳であり、65 歳まで継続雇用（報酬は減少）している会社が多い。日本の人口は少子高齢化の進行により、若年労働者は減少している。その対策の一つとしてとして、入出国管理法改正によって、外国人技能実習生の受入の拡大を図っている。しかし我が国は広く移民・難民を認めていないので、実習期間終了後は自国に帰ってその技能を生かすことを目的としている。

また、高齢者雇用の観点から継続雇用を 70 歳まで延長するべきとの意見があり、国民・厚生年金の支給もそれに合わせて 70 歳に引上げる可能性がある。人生 100 年の時代になり、70 歳からの 30 年間の「生きがい」を如何に過ごすかが、喫緊の課題となる。現在の年金制度では現役 2 人で年金生活者 1 人の面倒を見なければならぬし、やがて年金制度の破綻に繋がりがねない。

そこで如何に高齢者に働いてもらうかが問題となる。定年延長では企業に負担が掛かり、高齢者の能力の減退、各人毎のモチベーションの差、定年まで働いた後の生活環境の変化、老後の介護の問題、老人医療制度の在り方などなど、簡単に「高齢者雇用」問題として論ずることは出来ない。

充実した老後を送るには、国や政治に期待が出来ないし、「生きがい」とともに「リスク」のある生活を望むものでもない。そこで年金の他に計画的に収入の確保が必要になり、その収入の為に何をすることが次の問題点である。

日本の大企業は厚生年金・厚生年金基金・企業年金など充実した年金制度があるが、企業数で 99%以上を占める中小企業では厚生年金の負担で精いっぱいである。今後、年金の支給年齢が 70 歳に引き上げられ、支給額も減少すると思われる中で、高齢者の雇用と収入を同時に考えなければならない。

そこで、テレワークの必要性が問われる。総務省の定義ではテレワークとは「ICT（情報通信技術）を利用し時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」となっている。その効果としては少子高齢化対策の推進、働き方改革とワーク・ライフ・バランスの実現、地域活性化の推進など広範囲に亘っている。しかし、テレワークとは通常「在宅勤務」と訳されているが、テレ（tele-）には

「遠隔・離れたところ」という意味があり、何も自宅での仕事ばかりではない。事務所や別の場所での仕事や調査に行くこともあり、現場での作業なども含まれ、もとより年齢も関係ない。

キャリア・コンサルタント協同組合は「一般社団法人 日本テレワーク協会」の賛助会員であり、役員に組合員を送り出している。協会には複数の研究部会があり、それぞれに組合員が登録して活動している。

テレワークには「雇成型」「モバイルワーク」と「非雇成型」があり、当協同組合は「非雇成型」（施設利用型テレワークで複数社共同利用型）で、全国でも非常に珍しい組織である。それも中小企業等協同組合法に則った「事業協同組合」であり、経済産業省・農林水産省・国土交通省から認可された法人で、組合員は法人・個人を問わず事業主である。

組合設立の目的は組合員の長年に亘るキャリアを生かして世の中に奉仕し、定年後も生涯現役・生涯学習を旨とし、高齢者の働き場所と収入の確保を目指している。創業以来 25 年の歴史を持ち、現在の組合員数は約 50 名、年齢構成も 50 歳～85 歳と幅が広く、いろいろな国家資格や民間資格を有した人たちの集まりでもある。組合員は過去の経験が重要視されるが、変化の激しい世間に付いてゆくには自己研鑽と、研修への参加や新たな挑戦が必要である。

組合の事業内容としては ①経営コンサルティング事業 ②外国人技能実習生受入事業 ③ビジネス・キャリア認定試験の受験講座（対面式）④アウトソーシングの業務請負と業務代行 ⑤各種調査業務 ⑥ビジネスマッチング事業 ⑦組合員へのマイデスクの提供 ⑧業務コンサルティング事業（IT・ISO・BCP等） ⑨その他の事業を展開している。

最後に高齢者としてテレワーク以外の個人的な収入源をいくつか考えてみる。①若い時から、最近始まった「つみたてNISA（ニイサ＝少額投資非課税制度）」や「iDeCo（イデコ＝個人型確定拠出年金）」などで資産形成を始める。②起業し事業を開始、③不動産収入（賃貸用マンションの取得やアパート経営など）、④保険会社などの代理店、⑤国家資格を取得した事業（資格取得がゴールではなくスタートである）、⑥貯蓄から運用（投資）へ、⑦親からの計画的な贈与、⑧キャリアを形成しそれを生かす、などなど様々な手段がある。また、中小企業ではその企業に必要な人であれば定年に関係なく働く場所がある。

以上から少子高齢化時代の高齢者雇用と一口に言っても多くの問題を抱えており、政治も絡み個人だけで解決できる問題ではない。しかし、ある意味では「余生」は各人の責任での生活であり、国に頼ってばかりはいられない。在勤中は出来なかったことや趣味の追求、旅行やグルメなどリスクのない、ゆとりある生活を過ごしたいものである。

事務局だより

事務局長 平松 靖弘

● 2月如月。厳しい寒さに耐えて、冬から春へと変わりゆく、季節を一番感じる時が来ました。寒風が柵や竹垣など狭いところを吹き抜けて、ヒューヒューと音を立てることを虎落笛（もがりぶえ）といいます。虎落とは竹を組んだ柵。また、「もがる」とはだだをこねる、逆らうなどの意味もあり、風に対して柵や垣根、木の枝が抵抗して戦うように聞こえることから、この名で呼ばれ、この冬の厳しい寒さを感じさせる音色です。

● 異業種交流会のご案内

日時 2月6日(水) 19:00~21:00 に当組合会議室にて、第19回異業種交流会を開催しました。内容はテーマ「パワーアップして最高の人生を」に基づき、健康に関する生活に役に立つお話を講演会、TV出演などで活躍中の講師 岡本由香氏にお聞きしました。後半は交流会・名刺交換会での懇親会を開催しました。参加者は20名でした。

● CCK研修の集いは1月23日(水) CCK 組合員 上畑正和氏の講話でした。テーマは「AIの基礎」です。今最も注目されているAIについて基礎から事業展開まで分かり易く説明して頂きました。終了後懇親会を行いました。次回は3月予定です。お気軽に参加して下さい。

● ワインテイスティングの集い

御待ち遠様。今年最初のワインテイスティングの集いを3月8日(金) 17:30~19:30に開催します。今回もフランスワインを中心に、バレンタイン関連のワインを取り揃えて、いくつか味わいながら違いを確かめます。まあ難しいことを考えるより気軽に楽しんで下さい。ワインとチョコレート、美味しいチーズと料理を味わえます。皆様の参加をお待ちしております。

● 健康診断のご案内

東京商工会議所から、消化器系健診（がん予防健診）の案内が来ました。組合員／賛助会員の方々、本人以外の家族の方でも診断を受けることが可能です。

健診コース	健診内容	健診料金 / 名	所要時間
Aコース	「腹部超音波・血液・尿」検査	7650円	約40分
Bコース	Aコース+胃部エックス線検査	11840円	約60分
Cコース	乳腺超音波+CA125検査 (腫瘍マーカー)	6480円	約40分

No	健診会場	日程
1	高齢者保健支援センター	3/4、5
2	屋外広告ディスプレイ健保会館	3/6、7、8
3	すみだ産業会館	3/18、28

申込み締切日は平成 31 年 2 月 15 (金) です。ご希望の方は、事務局に問合せ下さい。

●2月の行事等の予定 (2/5 現在)

- 6日(水) 事業部長会 (10:30)、セミナー研修部会 (13:00)、
改革会議 (15:00)、異業種交流会 (19:00)
- 12日(火) 運営会議 (10:30)
- 13日(水) 営担会議 (10:30)、大田市場 (16:00)
- 15日(金) ドラッカー学会 (18:00)
- 16日(土) 独自 AI アプリ開発セミナー (13:00)
- 19日(火) 理事会 (13:00)
- 20日(水) 営担会議 (10:30)、IT (13:30)、CCK60 (15:00)
- 24日(日) 荻窪研究所 (14:00)
- 27日(水) 営担会議 (10:30)

●3月の行事等の予定

- 6日(水) 事業部長会 (10:30)、セミナー研修部会 (14:00)、
- 8日(金) ワインテイスト (17:30)
- 12日(火) 運営会議 (10:30)
- 13日(水) 営担会議 (10:30)、異業種交流会 (19:00)
- 15日(金) ドラッカー学会 (18:00)
- 19日(火) 理事会 (13:00)、研修の集い (16:00)
- 20日(水) 営担会議 (10:30)
- 24日(日) 荻窪研究所 (14:00)
- 26日(火) 賃金研究会 (18:00)
- 27日(水) 営担会議 (10:30)

一粒万倍

▲営業副本部長の竹内正順氏が1月25日早朝に逝去されました。享年は1945年生まれの73歳でした。前日24日は夕方まで普段道理に冗談を言いながら組合で仕事をしていました。竹内氏自身が救急車を手配しましたが、病院(高島平中央総合病院)で急性大動脈解離と診断され、そのまま帰らぬ人となってしまいました。竹内氏は一人暮らしなので、杉並に住んでいるお兄さん(竹内正和氏、82歳)が実家のある静岡で葬儀関係の手続きすべて行い、納骨迄済ませました。軌道に乗ってきた営業を担って行く予定の人材を失ったのは、組合にとっては大きな痛手でした。尚、最後の読書は辻村深月著「かがみの孤城」でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。安らかにお休み下さい。

▲平成天皇の退位に伴う元号決定の時期が迫ってきた。今後、年月日を元号で表示するか西暦にするかが、事務処理の上からも問題になってくる。日本の場合元号を優先してきたが、世界的には多くの国が西暦を基準にしている。元号の良さは「明治維新」「大正デモクラシー」「昭和前期・後期」「平成時代」等と時代の区別が出来るのである。西暦と元号の複数の時間軸を持っている我が国は、文化的には豊かな国と言えるのではないか。

▲日韓関係の問題点で根本的に違うのは、日本では、歴史感は「事実」関係で修正されてゆくのに対し、韓国（朝鮮民族）では「正義」を基準に置いて考えるので、過去に遡って正義に修正することを「良し」とする。そこで従軍慰安婦や元徴用工問題が生じて来る。領土問題やレーダーの照射問題も自分たちは悪くなく、日本の哨戒機の低空飛行が原因とする主張も根底は同じである。今後、海軍（海上自衛隊）を中心にして、日韓関係はかなりこじれそうである。

▲安倍首相が「日ロ平和条約」の締結を急いでいる。これも 1956 年に旧ソ連との間で結ばれた「日ソ共同宣言」に基づくものの延長線上ではあるが、最近のロシア人の反応を見ると、北方領土はロシアが第二次世界大戦で取得したものであり、ロシアの領土で日本への返還は必要ないとデモを行っている。北方四島に拘らず歯舞群島・色丹島の二島返還で一区切りをつけないと元も子もなくなるのではないかと心配している。

▲厚生労働省の「毎月勤労統計」の不適切な調査が明るみに出て以来、政府の発表する基幹統計の正確性に疑念を抱くようになった。政府は統計によって方策を決め、国会も統計に基づいて法律を作成するのであって、その統計が杜撰であったことは日本國の政策が間違っていたことになるのではないか。さらに民間の統計にも結果が及ばなければと心配である。

▲野田市の小 4 女児虐待事件ほど悲しく国民の涙を誘ったものはない。子を持つ親の行動、児童相談所の対応、学校での出来事、警察の調査などなど報道されるたびに涙が出て来るのは私だけではないと思われる。最近はこの報道が TV で放映が始まると、チャンネルを変えてしまうほど、映像を見ると悲しくなってくる。このような親による虐待が全国で多く発生しているのはなぜなのか。電車の中での光景では子供を介抱する親御さんをよく見かけるが、子供はみんな大層可愛く、なぜ親がこの様な虐待行動に出るのか、国を挙げて対策を考えねばならない。